

令和8年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第5号（8月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年7月23日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○8月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		7月の発生量 （平年比）	7月からの 増減	8月の発生量 （平年比）	
カンショ	① ナカジロシタバ	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	② エビガラスズメ	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
（温州みかん）	① そうか病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	② 黒点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（タンカン）	① かいよう病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② 黒点病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
マンガ	① ハダニ類	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
オクラ	① アブラムシ類	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
カンシヨ	トリバ類	多くのほ場で発生が見られた。幼虫が葉を食害する。発生初期の防除が有効であるので被害葉が出はじめたら、早期防除に努める。また、収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。
さとらきび	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で発生が確認された。多発するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の多発の原因になるため、葉裏を良く確認して初期防除を徹底する。
	カンシャコバネナガカメムシ（ガイダー）	複数の株出しほ場で発生が確認された。本種は4月頃から10月頃までに3世代を繰り返す。葉鞘部に幼虫の集団が見られる場合は薬剤を散布する。また、休耕地や収穫後の管理されていないほ場は発生源となるため、早急に耕起・砕土する。
かんきつ	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで、外観が損なわれるため商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。
	カメムシ類	一部のほ場でカメムシ類の発生が見られた。幼虫、成虫ともに果実を吸汁加害する。異常落果の原因になるため、早期発見・早期防除に努める。
マンガ	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。 カイガラムシ類は一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため早期発見・防除に努める。
オクラ	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。葉を中心に茎、花蕾、果実も食害する。登録農薬のうちベイト剤は使用方法に留意し作物にかからないようほ場周辺に処理する。茎葉に移動したカタツムリ類は捕殺に努める。

令和8年度 宮古群島 病害虫発生予報 第5号（8月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年7月23日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○8月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			7月の発生量 (平年比)	7月からの 増減	8月の発生量 (平年比)	
マン ゴ ー	①	チャノキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移 (→) -----
	②	マンゴーハフクレタマバエ	並	→	並	平年の発生量の推移 (→) -----
	③	ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘) -----

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予報の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で発生が確認された。多発するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の多発の原因になるため、葉裏を良く確認して初期防除を徹底する。
	カンシャコバネナガカメムシ （ガイダー）	複数の株出しほ場で発生が確認された。本種は4月頃から10月頃までに3世代を繰り返す。葉鞘部に幼虫の集団が見られる場合は薬剤を散布する。また、休耕地や収穫後の管理されていないほ場は発生源となるため、早急に耕起・砕土する。
マ ン ゴ ー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でコシロモンドクガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
オ ク ラ	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。葉を中心に茎、花蕾、果実も食害する。登録農薬のうちベイト剤は使用方法に留意し作物にかからないようほ場周辺に処理する。茎葉に移動したカタツムリ類は捕殺に努める。

令和8年度 八重山群島 病害虫発生予報 第5号（8月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年7月23日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○8月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			7月の発生量 (平年比)	7月からの 増減	8月の発生量 (平年比)	
さとうきび	①	バッタ類	並	↓	やや少	平年の発生量の推移（↓）
マンゴー	①	チャノキイロアザミウマ	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	②	マンゴーハフクレタマバエ	多	→	多	平年の発生量の推移（→）
	③	ハダニ類	やや多	↓	多	平年の発生量の推移（↓）
オクラ	①	うどんこ病	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	②	アブラムシ類	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
	③	フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）
④	チョウ目幼虫	並	↓	並	平年の発生量の推移（↓）	

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でナカジロフサヤガ、コシロモンドクガ、タイワンキドクガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
オクラ	葉すす病	一部ほ場で発生が確認された。不要な下葉を除去するとともに、発生確認時及び台風・大雨の前後には登録農薬を散布する。
	ミナミアオカメムシ	一部ほ場で発生が確認された。成、幼虫が果実や蕾を吸汁加害する。外観からは被害がわかりにくい、果実を切断すると種子の変色や吸汁部の褐変が見られる。また果実基部が吸汁されると内部がスポンジ状になる。発生源となるほ場周辺のイネ科雑草を除去し、登録農薬を散布する。
	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。切り戻し後萌芽した株は、草丈が低く葉が柔らかいため加害を受けやすいので、発見次第捕殺に努める。